

◆全国生協の緊急支援 まとめ(1)

<地震の概要>

2011年3月11日14:46
東北地方太平洋沖地震
発生
規模:マグニチュード9.0

<被災地生協の緊急支援活動>

被災地生協は、地震発生直後に対策本部を設置。被災者への商品供給に努め、また自治体や避難所への物資の配送も行ないました。

また、お見舞い活動を行ない、被災者の孤立を防ぐとともに、困りごとの相談に応じてきました。



被災地支援に向かういわて生協トラック。

<全国の会員生協の緊急支援活動>

2011年4月28日までに、トラック延べ1,190台分、支援者延べ3,587人を派遣。食料や燃料を含む約71万点(トラック約370台分)の物資支援が行なわれました。

また、日本生協連加盟のほぼすべての会員生協で募金活動が行なわれました。

復興への思いを歌にのせて

みやぎ生協は3月6日、仙台市泉区イズミティ21大ホールで、歌手・クミコさんのコンサートを開催しました。クミコさんは、震災当日、「こ〜ぷ文化鑑賞会石巻例会」に出演するために訪れていた石巻市で被災。今回のコンサートは、日本生協連の助成金を受け、震災から1年を経て実現したもので、一般のメンバーとともに、当時の文化鑑賞会石巻会員の皆さんも多数参加されました。

コンサート冒頭では、震災で犠牲になられた方への黙とう後、みやぎ生協理事長の齋藤昭子氏の「絆とともに響く歌声から、明日への、復興への思いを確かめ合いたい」というあいさつで開演しました。クミコさんは13曲を熱唱。拍手が鳴り止みませんでした。

名取市の閑上で被災し、現在仮設住宅で暮らす組合員は「歌のひとつひとつが心に染みしました。生協で活動していたことで、こういう機会がいただけたので、恵まれているなと思っています」と、感激した表情で話していました。



皆が開場を心待ちにし、列を作っていた。



来場者と固い握手を交わすクミコさん。「やっとお会いできましたね」

全国産直研究交流会、仙台で開催



実践報告が、田老町漁協、コープふくしま、みやぎ生協から行なわれた。



交流会参加者から集めたメッセージを生産者に贈呈。

日本生協連は、2月24～25日、宮城県仙台市の江陽グランドホテルにて、「全国産直研究交流会」を開催しました。28回目となる今回は初めて首都圏を離れ、東日本大震災で被災した宮城県仙台市での開催でした。参加者は、全国生協の産直担当者、組合員、生産者、流通・加工会社など159組織372人。復興を目指す被災生産者や被災地生協の報告を中心に行なわれ、あらためて生協産直の意義を確認し合う交流会となりました。

研究交流会終了後にはオプション企画として、岩手県田老町漁協、宮城県南三陸町の宮城県漁協志津川支所、宮城県JAみやぎ仙南などを訪問しました。参加者からは「決して忘れてはならない震災の被害を知り、生の声を聞くことができました。生協産直にしかできないことがあるので、それを育ていけるよう力になりたいです」といった、地域の再生に向けて自ら関わっていこうとする声が多く寄せられました。